

平成 30 年 9 月 7 日現在

機関番号：44518

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2017

課題番号：25871022

研究課題名(和文)FASTの新評価システムの構築：父母子の認知のズレを通じた研究

研究課題名(英文)A proposal of a new evaluation system of FAST: Study through a difference in recognition of my parents child

研究代表者

中見 仁美(NAKAMI, HITOMI)

園田学園女子大学短期大学部・幼児教育学科・准教授

研究者番号：80469212

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、Family System Test (FAST)で使用する検査器具の仕様を一部変更し、規定の検査方法による一面的な家族構造の評価だけでなく、父母の測定も行い、三者間(父母子)の評価のズレを多面的にとらえる新しい評価軸を加え、その評価方法を検証し、FASTにおける新しい評価システムを構築することを目的としてきた。

新しい評価軸を加えた検査を実施したが、統計処理で時間が掛かり、現在分析中である。また当初の予定人数より集まらなかったため、計画を変更し再度募集をかけたが、それでも研究協力が得にくい状況が続いた。

研究成果の概要(英文)：In this research, we changed part of the specifications of inspection instruments used in Family System Test (FAST), not only evaluation of one-sided family structure by prescribed inspection method but also measurement of parents, The purpose of this study is to add a new evaluation axis that captures deviations in the evaluation of children) in multiple ways, verify the evaluation method, and construct a new evaluation system in FAST.

I conducted a test with a new evaluation axis added, but it takes time in statistical processing and it is currently being analyzed. Moreover, because it did not gather from the initial planned number of people, I changed the plan and recruited again, but the situation where research cooperation was hard to obtain continued.

研究分野：社会科学

キーワード：Family Sysytem Test

1. 研究開始当初の背景

近年、ひきこもりの増加など青少年の精神的健康度の低下が問題となっている。内閣府の「青少年に関する調査」(2009)によると、現在、ひきこもりをしている青少年の40%は相談相手として、親¹をあげ、「家族に申し訳ないと思うことが多い」とする者が多い。

青少年の精神的健康と家族関係が関連するとして、従来の研究では子が家族関係をどのように評価しているかに焦点が当てられてきた(中見, 2007; 小島, 2011など)。しかし、子だけではなく、親の精神的健康・夫婦関係も家族関係に影響を与えており(大島, 2009)、臨床現場では、親と子の両方へのアプローチが必要な場面が多い(例; 高橋, 2008など)。また、実際に問題解決・治療において、急速な時代の変化に伴い、これまでの家族関係のモデルのみでは対応しきれないことも少なくない。

2. 研究の目的

大学生である子どもがFASTで表現した家族関係と、両親の夫婦間の愛情との関連をみた。その結果、家族内の個々の2者関係では母親の父親に対する愛情、家族全体と父親の母親に対する愛情に関連がみられた(中見・桂田, 2011; Nakami & Katsurada, 2012)。このように子どもの家族関係認知と夫婦間の愛情に関連があることが示されたが、夫婦間の愛情が実際に、夫婦それぞれの家族関係認知にどのように関連しているのか、また子どもの家族関係認知と保護者の家族関係認知とがどのように関連しているのかは明示されていない。本研究で、家族それぞれの家族関係認知がどのように関連して

いるかが明確になることで、ひきこもりなど青年期の子どもがいる家族で何らかの問題が生じ、解決への目標を立てる際に、モデルが提示できると考えられる。そのモデルを構築するため、子どもである大学生、その保護者への調査が必須である。

そこで本研究では、大学生を対象に、子のみの一面的な家族関係認知だけではなく、保護者の認知も含めた多面的な家族関係のデータの収集を行い、大学生・保護者の精神的健康・夫婦関係とどのように関連しているのかを検討する。最終的に、本研究で得られた結果を、大学生とその保護者の家族関係認知の最新データとして発表・報告し、臨床現場での問題解決・治療の一助とすることを目的とした。

3. 研究の方法

研究デザイン：心理検査と質問紙調査を組み合わせた探索的研究である。

調査項目：学生には と の2種類、保護者には と と の3種類の調査を実施する。

Family system test (FAST)：チェスのようなボード上に、目と口が描かれた男性、女性を示す2種類の木製の人形を家族に見立てて協力者に配置させ、家族関係をどのように認知しているかを把握するための心理検査である(別紙参照)。

GHQ 精神健康調査 28 項目版：GHQ は精神的健康度を測る質問紙である。本研究では時間短縮のため短縮版の28項目を使用する。

Marital Love Scale(夫版・妻版)：夫は妻への、妻は夫への愛情度を15項目で測定する質問紙である。本質問紙は、保護者の実態に応じて配布する。保護

¹ 本文中、「親」は父親あるいは母親を示し、「保護者」は父親・母親以外に、子どもが保護者と認知している者も含む。

者の実態は、学生が調査時に家族を FAST で表現するため、申請者は質問紙の配布前に知ることができる。例えば、保護者がひとり親・祖父母などの場合、配布しない。

評価項目：

主要評価項目は、大学生と保護者の FAST の結果と精神的健康度との関連性をみる。

副次的評価項目は、大学生、保護者の両者の家族関係認知の一致またはズレの度合い、（保護者が父親と母親の場合）配偶者への愛情度とその保護者本人の家族関係認知との関連性、の2点である。

手続き：生命倫理委員会承認後、以下の手順に従って調査を進める。

（1）学生への依頼

申請者の授業終了後、5 限授業担当の先生から協力を得られた授業終了後、あるいは昼休み、空き時間などで学内にいる学生に対して、申請者が「研究への協力のお願い」のチラシを配布する。配布時に、調査の背景と目的及び調査内容、

調査への協力は任意であること、協力する場合、粗品(1,000 円相当)の贈呈があること、学生と保護者の両者それぞれの協力が望ましいこと、協力の可否と授業の成績とは全く関係ないこと、

調査は途中、いつでも中止できることを説明する。調査結果は学会等で発表されるが、個別の回答がそのまま公表されることはなく、回答は統計的に処理されること、回答済みの調査用紙やデータは、鍵のかかる場所で保管することも説明する。

さらに質問や相談など、何かある場合のために連絡先（中見仁美研究室）を提

示し、後日、何かあった事態に対応可能とする。これらの内容をチラシを用いて口頭で説明し、また「研究への協力のお願い」にも記載しておく。以上の説明を受け、同意を得られた者を研究協力者とし、後日、連絡があった学生と申請者が大学のメールなどで連絡をとり日程調整を行う。

（2）学生への調査実施

調査当日、研究協力者は中見仁美研究室に直接来訪し、カウンセリング演習室に移動する。「研究への協力のお願い」の説明事項を再度説明の上、同意書にサインを頂く。その後調査を実施する。調査時間は約 30 分を予定している。調査終了後に、学生に研究協力のお礼の品(1,000 円相当)を贈呈する。

（3）保護者への依頼

学生が保護者への協力依頼の意思を、申請者に告げることなく選択できる方法をとる。このような方法を取るのには、学生のさまざまな家族関係に配慮するためである。

・保護者と同居している場合・・・学生から直接、保護者に手渡してもらう。学生の調査終了時に、研究への協力のお願い（保護者用）、返信用書類、返信用封筒を同封した封筒を渡し、学生経由で保護者に渡してもらう。保護者には、協力あるいは詳細を聞く意思があれば、返信用書類を記入してもらい、返信用封筒にて郵送してもらう。

もし、学生が保護者に協力を依頼する意思がなく、申請者にその旨を告げにくい場合、学生は保護者に封筒を渡さないという選択ができる。

・保護者と別居している場合・・・その場で学生自身に保護者の宛名を書いてもらい、申請者が封筒を郵送する、または、申請者が宛名を記入する封筒のみを学生に渡し、後日、宛名記入済みの封筒を学生から渡してもらい、申請者が郵送するというどちらかの方法を取る。以下、同居の場合と同じとする。

もし、学生が保護者に協力を依頼する意思がなく、申請者にその旨を告げにくい場合、学生は封筒のみを申請者からもらう方法で、後日封筒を申請者に渡さないという選択ができる。

別居・同居いずれにおいても、返信があった保護者を研究協力者とし、日程調整を行う。なお、保護者には、交通費(遠方の場合は1名につき50,000円程度を上限として実費支給)、研究協力のお礼の品(3,000円相当)を贈呈する。財源は科研費から賄う。

(4) 保護者への調査実施

基本的に実施は本学で行うが、日程調整がつかなかった場合、申請者が学外に出向く。

・本学で実施する場合...調査当日、研究協力者は中見仁美研究室に直接来訪し、カウンセリング演習室に移動する。予め記載しておいた「研究への協力のお願い」の説明事項を口頭で説明の上、同意書にサインを頂く。その後調査を実施する。調査時間は約40分を予定している。

・保護者が自宅から出向くことが可能な場所を実施する場合...調査当日までに、保護者が出向くことができる場所近辺のレンタル・スペース(民間で貸し出されている会議室など)の個室を申請者が借りる。調査当日、レンタル・スペースにおいて、本学で実施する場合と同様に、「研究への協力のお願い」の説明事項の説明、同意書へのサインを頂き、調査の実施を行う。調査時間は40分を予定している。

4. 研究成果

新しい評価軸を加えた検査を実施したが、統計処理で時間が掛かり、現在分析中である。また当初の予定人数より集まらなかったため、計画を変更し再度募集をかけたが、それでも研究協力が得にくい状況が続いた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

1 中見 仁美

家族アセスメントツール Family System test (FAST)について 園田学園女子大学論文集第、50号、2016、73-83

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者
()

研究者番号：

(2)研究分担者
()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：

(4)研究協力者
()